

高鷲の大神楽について(3)

大神楽には、大神楽と太神楽がある。太神楽（だいかぐら）とは、江戸時代末期から寄席芸能として広く大衆の人気を集めた、日本の総合演芸で神楽の一種。主に獅子を舞わせて悪魔払いなどを祈禱する獅子舞をはじめとした「舞」と、傘回しをはじめとした「曲」（曲芸）がある。現在は寄席でおもに見られる。

伊勢大神楽とは江戸時代、伊勢神宮に参りたくても、参れない人々のために、壇那場各戸に伊勢神宮の御札を配って、各家々の竈祓いや家内安全のお祓いを行い、獅子舞を舞うのが、伊勢大神楽の芸能の総称です。高鷲の祭の獅子舞は伊勢大神楽系統が伝わったと思われる。

鮎走白山神社の大神楽

昔、白鳥あたりから習ってきたと伝えられている。当初、鮎走白山神社の氏子は地元と正ヶ洞・中切・前谷の4カ村であったといわれ、後にそれぞれの集落にも神社が建立され、ついでに神楽なども鮎走白山神社から伝えたという。（続高鷲村史）

鮎走白山神社の祭礼は練り、神事、大神楽舞の3要素から成り立っている。練り出しは区長宅で大神楽と稚児舞を行ってから「練り笛」に合わせて神社に向かう。ひねり役は全て男性が行い、その順序は次のようになっている。出仕花(1)一青竹拔(2)一棒振り露払い(2)一奴(3)一鏡奴(3)一槍持ち奴(1)一鼓打ち(5)一笛(5)一獅子頭(1)一2番獅子(1)一蚊帳引(5)一神楽舞太鼓(3)一大太鼓(1)一小太鼓(1)一大天狗(1)一おかめ(1)一般若(2)一東西呼ばわり(1)一拍子木(1)一太鼓打ち(2)。「練り笛」にのってねりが境内を左回りに1周したら、拝殿に上がる。それから神事が始まり、神事の時に雅楽が行われる。

はじめに東西呼ばわりの言立てがあって「大祓い」がある。つぎに、「悪魔払い」が行われ、この後に獅子の中に3人が入り、「こしずめ」が行われる。ここまでが大神楽であるが、次に「稚児舞」が行われ、この時には獅子は出ない。「稚児舞」の後、神楽打ちが休み、東西呼ばわりが「大神楽納め候」と言うと2番獅子が「岡崎」を舞って神楽は終了である。拝殿から太鼓が下ろされ、役者も下がる。あたりで休んでいた奴達も集合して拝殿の左側に本殿に向かって並ぶ。再び行列を仕立てて拝殿を右に半回りして境内を出、鳥居を出てから、「練り笛」「道行」ですぐに解散する。（寺田敬藏「郡上の祭」より）



鮎走白山神社大神楽

大鷲白山神社の大神楽

明治41年に穴洞、中切、向鷲見の白山神社と正ヶ洞天王社が現在の地に合祀されてから大鷲白山神社となる。向鷲見白山神社の練り・神楽は長滝寺社僧より伝えられた。穴洞白山神社の練り・神楽は向鷲見白山神社から伝わった。中切白山神社の神楽はどこから伝えられたかは定かでないが、創建時に「おっきりまい」が取り入れられた。大鷲白山神社の神楽や練りは主として向鷲見白山神社のものを取り入れている。「おっきりまい」は中切白山神社のものを取り入れ、現在に至っている。

地区の氏子総代の家の内代表3軒（向鷲見1、中洞1、正ヶ洞1）を練りのある年は道中を練り、総代の家では「獅子舞」と「おっきり舞」とを奉納する。氏子総代の3軒での奉納が終わると、道中を練りながら大鷲白山神社に向かう。

神事と同時くらいに太神楽も始まり、最初に礼拝が舞われ、次に悪魔払いの「やまのえ」

が舞われ、次いで「こしずめ」「おっきりまい」「おかざき」が舞われる。神事が終わる頃神楽も終わり、御神酒が出てしばらく休憩する。2回目は「やまのえ」が舞われ、同じ順序で神楽が奉納される。「こしずめ」と「おかざき」は4頭の獅子が出て舞われた。神楽が終わると拝殿の前で全員が記念写真を撮り、再び行列をしたて、「練り笛」に合わせて境内を左回りに一回りして退場する。その時奴は威勢良く唱和をする。鳥居のところで「練り笛」は終わり、解散する。



最初の獅子一人立、礼拝



大鷲白山神社境内で舞う獅子

鷲見白山神社の大神楽

江戸時代、飛騨高山方面から伝えられたといわれている。当時、街道は鷲見から一色と野々俣に通じ、人的交流も盛んであり、飛騨文化の流入も容易に行われた。

神楽宿から出発した練り行列は次のようになっている。出花(1)一露払い(2)一奴(2)一槍持奴(6)一先箱(2)一弓ふり(2)一青鬼面(1)一鉄砲(2)一長刀(8、内女装 4)一鳥毛振(8)一おかめ(1)一太鼓打ち(2)一笛吹き(2)一赤天狗(1)一白天狗(1)一太鼓台一氏子の総勢 43 名となっている。「カミサマ」という道行曲で境内入りした行列は右回りに三回拝殿を回る。行列は半歩進んで両足を揃えて立ち止まり、右手を挙手の型をしながら2列になって進む。なお、曲が変わる時は拍子木によって合図される。拍子木は祭に詳しい者が持つ。回り終わると舞台が上がり、他は拝殿へ入り神事に参加する。

獅子とおかめは拝殿に入らない。神事が終わって本殿前で御神酒が出て、しばらく休憩となる。神楽が始まるが、比較的自由に舞われる。回し手の関係で獅子が3頭出るときもあれば、1頭の時もある。獅子舞曲は「悪魔払い」「山の上」「飛び獅子」「猫の舞」「こしずめ」「下街道」「しらみ獅子」「へんび獅子」「玉とり」等があるが今はその一部しか行われず、順番も決まっていない。約1時間あまりの獅子舞が終わって、再び道行きとなり、行列をしたてて氏子代表宅、次いで区長宅で一芝舞って、最後に薬師堂の前で舞い打ち上げとなる。(寺田敬藏「郡上の祭」より)



薬師堂の前で舞う 鷲見白山神社大神楽